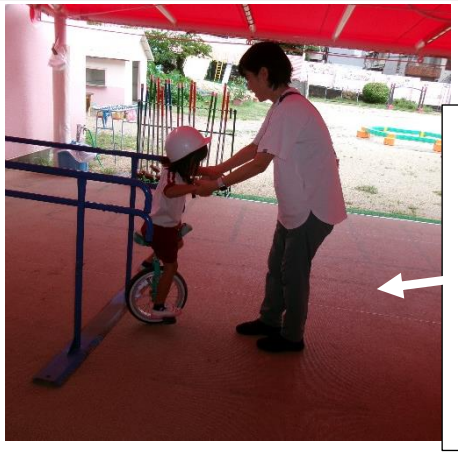






遊びの中で、「できるようになりたい！」と目標をもち、取り組み、運動会で披露します。
（目標をもち、それに向かって取り組めるようになるのは、幼児期の後半から８歳ぐらいと言われています。個々の発達がありますので、“楽しい”を１番に考えて遊ぶことを優先する姿も素晴らしいです）
「一輪車に乗れるようになりたい！」「竹馬がしたい！」「一本歯下駄をしたい！」とそれぞれが自分の取り組みたいことを披露します。
これまで取り組んできた過程で、様々な心の葛藤を経験しました。出来なくて悔しい思い、転んで痛くて泣いてしまったこと、それでも出来るようになりたいと頑張った目標…。
見栄えや結果ではなく、取り組んできた過程を想像していただきたいです。そして子どもたちの内面の成長に大きな応援をお願いします！





５歳児に刺激を受け、４歳児も一輪車にチャレンジしています。運動会の５歳児のかっこいい姿が憧れになり、来年度、きっとチャレンジします。
つながり、引き継がれる思いや姿・・・。







　めばえくらぶの子どもたちも一緒にこれまで取り組んできました。４歳児は、めばえくらぶの子どもたちを前にすると、急にお兄さん、お姉さんの顔になります。一緒に楽しむプログラムもあり、４歳児なりにめばえくらぶの子どもたちのお世話をします。その時の４歳児の表情・・・。なんて愛おしい…。
　また、めばえくらぶの子どもたちの可愛さに先生たちも、とろけています。
　少人数だからこそ、みんなで活動する機会をつくり、５歳児・４歳児・めばえくらぶの子どもたち、一緒に活動してきました。

　５歳児のなんと成長した姿…。友達と一緒に活動することを楽しみ、掛け声をかけ合い、気持ちを一つに取り組みます。
　また、自分の演技が終わっても友達を応援している姿をぜひ、見ていただきたいです。自分の出番が終われば終わりではなく、目の前で頑張っている友達を応援する姿にぐっときます。










ちりばめられた普段の保育・先生たちの手作りアイテムなどなど、運動会の細かいところも、ぜひ見ていただきたいポイント！

例えば、年長のリレーのゼッケン！先生たちの手作りです。また、４歳児のカエルの帽子！これも先生の手作り！そして、サトイモの葉…。これは、みんなで植えたサトイモが大きくなり、葉を使って遊びます！そして、子どもたちの演技の後ろにあるピエロ！これも、５歳児がピエロのイメージをわかせながらつくった手作り作品です！

イメージを共有し、つくって遊び、さらに体でも表現する！まさに運動会は普段の遊びの積み重ねの披露であり、総合的に育む幼稚園教育です。

















ザリガニから隠れる子どもの後ろ姿…。本当に隠れるカエルたち…。でも、カエルの帽子が見えている…。いろいろな角度から見ていただけたらいいのに…。本当に可愛いです。

雨が多かった今年度。雨が降っても、遊戯室やテラスで遊んできました。子どもたちの活動は環境一つで変わります。テラスで一輪車をしたり、土粘土をしたり、かくれんぼをしたり、子どもたちがワクワクする環境を整えるのが、先生たちの仕事。先生たちは日々、頭を柔らかくして、「これはこうあるべき」から「こうしてもいいんじゃない？」と話し合い、環境を整え、子どもたちが遊べるよう、また、更に遊び込めるよう取り組んでいます。















桃園幼稚園は、少人数だからこそできることに取り組んでいます。少人数だから、２クラス合同で取り組んだり、リレーも一回戦で終わりでなく、二回戦したり…。

例えば、リレーでは、普段、勝つために子どもたちだけで相談し、「作戦タイム」として作戦を練っています。それなら、それを運動会で見ていただくのもいいのでは？！と今年は「作戦タイム」も披露します。

そしてパラバルーンでは、５歳児の気持ちを合わせた演技を披露し、後半４歳児にもお手伝いをしてもらいます。

運動会について。

子どもたちは、「運動会」という行事のためだけに練習を重ねてきたのではありません。日頃から楽しんでいる遊びの中で育んできた姿を、運動会の場でそのまま表現しています。また、遊びを通して、「一人一人がばらばらに好きなことをするよりも、みんなでルールを守って取り組んだ方がもっと面白い」ということに気付き始めます。その中で、ルールを守ることや友達と協力することの大切さを学びながら、時には思いがぶつかったり、うまくいかず悩んだりするなど、さまざまな葛藤も経験してきました。友達同士で力を合わせたり、一人で黙々と挑戦したりしながら積み重ねてきた経験こそが、子どもたち一人一人の成長につながっています。

気持ちを一つにして一緒に取り組む楽しさを感じ、友達を応援したり、応援されたり、「友達」から「仲間」となり、運動会に向かってきました。一人一人の少し緊張した、でも一生懸命な表情や、友達を応援している姿など、「できた」「できなかった」ではなく、子どもの内面の育ちに目を向けていただきたいです。